2025年9月1日

最近、というより近年と言いますか、新聞とか雑誌とかを読んでいると、コラム欄によく登場する話っていうのがありまして、これはアメリカの寓話なんですけども。 題名は英名であるので、和訳した題名にはなりますが、「メキシコ人漁師とアメリカ人 MBA 取得ビジネスマン」というような感じです。

これ、よくいろんなところに登場するので聞いたことある方はいらっしゃると思いますけどね。

アメリカのエリートビジネスマンが、観光でメキシコの漁港を訪れた時に、ちょうど小さな漁船が漁から戻ってきたんですね。 で、その時のメキシコ人漁師とアメリカ人ビジネスマンの会話です。

ビジネスマン： よく釣れたね。これどのくらい時間かかったの？
漁師： いや、そんなかかってないよ。
ビジネスマン： もっと取ったらよかったのに。
漁師： いやいや、生活していく上ではこれで充分だよ。
ビジネスマン： 一日ってどんな生活しているの？
漁師： 朝はゆっくり起きて、釣りをして、昼ご飯を妻と一緒に食べて、昼寝をして、子供たちと遊んで、夜は友達と酒を飲んで、ギターを弾いて歌うんだ。
ビジネスマン： いや、魚を釣るというのを、もっと広げてビジネスしてやったら、お金が稼げて幸せになれるよ。 水産加工場とか作って、加工会社として大きくして成功できるよ。
漁師： でも、それってどのくらい時間かかるんだね
ビジネスマン： うーん、15 年から 20 年かな
漁師： で、その 15 年から 20 年経って、成功した後どうするんだね
ビジネスマン： 成功した後は引退して、悠々自適の幸せな生活を送るんだよ。 それはやはり、一日は、朝ゆっくり起きて、釣りをして、それから昼ご飯を奥さんと食べて、昼寝して、夜は友達とお酒を飲みながらギターを弾いて歌うんだよ。そんな生活が手に入るんだよ。
漁師： いや、その生活だったらもう手に入ってるよ。

というオチで終わる話なんですね。

この話についてはいろいろな見方があってですね、いろいろな考え方があるとは思うんです。

私の中では、この話で、幸せというものの本質をついてるな、と思う部分があります。
それで、この話を突き詰めていった時にですね、一つの言葉と出会ったんです。

それが、「足るを知る」という言葉でした。これは、自分の満足を知るということ、この満足を知ることによって、現状に満足でき、現状に対して幸せを感じることができるというものなんですね。

これは、幸せを追求していくということでは非常に大きく重要なファクターだなと思いますし、私の人生の中でも非常に大きなキーワードになりました。

この話を通じて、この「足るを知る」という言葉に出会えたことに大変感謝をしております。

以上

代表取締役社長　角髙哲治

（後日談）
朝礼で話すとなると、言い足りなかった事がいろいろ出てきます。（いつも 2 割くらい不足）

メキシコ人漁師の毎日の生活は、ありきたりの平凡な一日に見えますが、実は幸せな人生を送っていて、そこにお金の有無は関係ありません。そして、漁師本人がそれを自覚しています。また、アメリカ人ビジネスマンが考える「ビジネスで成功する幸せ」というのも否定するつもりは全くありません。

物心両面の幸福を追求する。これは当社の経営理念にある、「一人ひとりによるみんなの幸せの追求」に直結します。

現在過ごしている一日一日を味わえているかな？　大切にできているかな？
最近、そう思い返しています。

もし、自分が余命 100 日と言われたなら、今日の一日は残りの人生の1%ということになります。 大切に大切に生きなきゃ、と思います。 普段からその気持ちでいられるといいのですが、実際難しいものです。「大切に」というのがプレッシャーというか、気負いになってしまうのも事実です。

毎日のように、主業員一人ひとりの幸せを追求していく中で、「精神的な幸せ」について思い悩んでいました。「より高い人間性を磨く」ことで得られるものなのだろうと想像しながらも、どうやったら？　いつになったら？　と掴みどころのないものと格闘する日々でした。

そんな中で出会った「足るを知る」という言葉。
古代中国の思想家、老子の言葉ですが、精神的な幸せの本質がここにある、と気付きました。

そのような事を含めて朝礼でお話しできればよかったのですが、私もまだまだです。

完